

第23回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

～重度重複と高齢の聴覚言語障害者の発達と権利を考える～

実施要綱

1. 主旨

わたしたちは、障害者、高齢者をはじめ、すべての人たちの暮らしと人権を守り、幸せを実現するため、日々の社会福祉事業を行っています。しかし、社会福祉制度の「改革」により、給付の抑制と自己負担の増によって福祉が利用できない人が増え、市場化と「自助・共助」による「全世代型社会保障」が進められ、「権利としての社会福祉」がなし崩しにされようとしています。また、社会福祉法人制度の「改革」により、法人組織と会計を企業型変え、「地球共生社会」に貢献する社会福祉法人、法人の大規模化を進めようとしています。

また、昨年4月には障害・介護・医療分野の報酬が同時改定されました。障害者の就労系における成果主義導入、障害児の放課後等への区分導入、介護の自立支援型介護・重度化防止への財政誘導などにより、権利としての事業理念、いきいきと働きたい、豊かな放課後、ゆったりとした高齢生活を歪め、事業所も減収となるなど施設経営にも大きな影響を与えました。また、報酬削減により事業所の倒産・閉鎖は毎年過去最高を更新、職員が確保できないことからサービス縮小を余儀なくされるなど深刻な状況が続いています。

このような情勢下でも、手話言語条例が全国各地で採択され「手話は言語」「コミュニケーションは権利・生きる力」との理念をきっかけ、「コミュニケーションと情報提供そして聴覚障害者の集団、居場所、役割」が保障された事業所が全国各地に誕生し、ろう重複やろう高齢者の暮らしと権利を守る豊かな実践が展開されています。

そして今こそ当事者や事業所で働く人たちの実態や願いを実現・発展させるために、実践を持ち寄り、制度や実践の課題と解決策を探求・提案していくこと、それを掲げた力強い運動を展開することが重要です。

本集会では、

- ①事業所における発達や権利保障についての専門的な支援・実践を持ち寄り、前進させる。
- ②各地で展開されている当事者の暮らしと権利を保障するための新たな事業展開についての交流。
- ③ろう重複・ろう高齢者の障害や支援の特性を踏まえた制度づくりに向けた問題提起と制度改善に取り組みます。

以上の3本の柱をもとに全国のなかまと交流、研究し合い、聴覚障害者福祉の向上に努めます。

2. 主催 社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会

3. 共催 社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会
社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会
社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会
社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
全国ろう重複児・者家族連絡会

4. 協 力 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会

5. 運 営

第 23 回全国聴覚言語障害者福祉交流集会大阪実行委員会

構成団体（予定／順不同）

社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会／公益社団法人大阪聴力障害者協会／社会福祉法人コスモスほくぶ障害者作業所／大阪手話通訳問題研究会／大阪手話サークル連絡会／障害者支援施設なかまの里／高齢者介護福祉施設あすくの里／障害福祉事業あいらぶ工房／北摂聴覚障害者センターほくほく／大阪重複ろうあ者家族の会／大阪ろうあ会館／大阪聴覚障害者福祉会・後援会／全国福祉保育労働組合大阪地方本部大聴協分会、市身協分会、ほくぶ作業所分会、大聴福分会

6. 後 援（予定）

厚生労働省／社会福祉法人全国社会福祉協議会／大阪府／社会福祉法人大阪府社会福祉協議会／大阪市／社会福祉法人大阪市社会福祉協議会／社会福祉法人大阪自立支援協会／NHK 厚生文化事業団近畿支局／社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団／公益社団法人毎日新聞大阪社会事業団／社会福祉法人讀賣光と愛の事業団／社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団

7. 協 賛（予定）

一般社団法人全日本ろうあ連盟／一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／一般社団法人全国手話通訳問題研究会／一般社団法人日本手話通訳士協会／社会福祉法人全国手話研修センター／全国障害者問題研究会／きょうされん／全国聴覚障害者情報提供施設協議会／全国ろう重複障害者施設連絡協議会／全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会／特定非営利活動法人ろう教育考える全国協議会／障害者（児）を守る会大阪連絡協議会／きょうされん大阪支部／一般財団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会

8. 開催期日 2019 年 11 月 16 日(土)・17 日 (日)

9. 開催場所 立命館大学 大阪いばらきキャンパス
大阪府茨木市岩倉町 2-150
(JR 京都線「茨木駅」下車徒歩約 5 分)

10. 開催規模 500 名

11. 参加資料代 5,000 円 ※学生の参加資料代は 3,000 円

12. 内容

《開会全体会》

- (1) 開会式
- (2) 全体講座(トークセッション)

「これからの福祉を考える～ろうあ者の願いを原点に実践と運動を」

公益社団法人大阪聴力障害者協会 理事会相談役 清田 廣
社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会 専務理事 佐藤 修
司会 あすくの里 施設長 平田 幸也
ほくほく 総括主任 西田 美和

《入門講座》

聴覚障害児・者のライフサイクルに沿って学びます。「家族の思い」やなかまの実態「乳幼児期」「学齢期」「成人期」「高齢期」に分けてそれぞれの分野で関わる講師をお招きしています。

聴覚障害児・者の福祉の運動、実践、社会資源づくりから福祉情勢まで、広く学びたい方を対象とした初心者向けの講座です。

11月16日(土)

講座1「もず共同作業所の実践と運動 大阪」(家族の思い)

11月17日(日)

講座2「乳幼児期手話獲得支援事業こめっこの取り組み 大阪」(乳幼児期)

講座3「重複障がいをもつ子供の健康管理と緊急時対応

大阪府立中央聴覚支援学校」(学齢期)

講座4「農福連携事業の取り組み さんさん山城 京都」(成人期)

講座5「高齢聴覚障害者への社会資源づくりと支援 和歌山聴覚障害者協会」(高齢期)

《実践交流会》

第1分科会「労働と発達を考える」

第2分科会「心とからだの健康づくり」

第1分散会「こころの健康」

第2分散会「からだの健康」

第3分科会「コミュニケーション保障と集団づくり」

第4分科会「高齢聴覚障害者の介護を考える」

第5分科会「地域生活を考える」

第1分散会「高齢聴覚障害者のくらしを地域で支える」

第2分散会「重複聴覚障害者のくらしを地域で支える」

第6分科会「家族の願いと家族会」

第7分科会「福祉実践と福祉制度のありかた」

第8分科会「聴覚障害児の発達を考える」

《閉会全体会》

入門講座、分科会の到達点を全体で共有し、次回集会への引継ぎと課題提起を行います。

13. その他

- 自主交流会 参加者が発起人となり職種や課題別に集まって交流を深めます。
- 展示・販売 全国各地の重複と高齢の聴覚言語障害者の作業所、施設、関係団体にて生産された自主製品等の展示販売を行います。
- なかまの集い 参加者のご家族・なかまが集い、なかま同士自己紹介やレクリエーション等を通して交流を深めます。

14. 日程表

16日（土）			17日（日）			
入門講座	分科会	なかまの集い		入門講座	分科会	なかまの集い
集おう！学ぼう！交流しよう！			9	講座2 乳児期 9：00～10：00	分科会 9：00～ 12：00	依頼者から 引継ぎ
			10	講座3 学齢期 10：00～11：00		
共同研究者 司会者打合せ	依頼者から 引継ぎ	11	講座4 成人期 11：00～12：00			
受付 12：00～		12	昼休憩（1時間）			
開会式・基調報告 12：45～			会場内 活動	13	講座5 高齢期	分科会 13：00～14：30
特別講演 13:00～15：00				14	移動	
移動				15	閉会全体会 15：00～16：00	
講座1 家族の思い	分科会	依頼者へ 引継ぎ		16	依頼者へ 引継ぎ	
15：30～17：00			17			
移動			18	依頼者へ 引継ぎ		
自主交流会（自由参加） 17：30～18：30						

<お問合せ>

第 23 回全国聴覚言語障害者福祉研究交流会大阪大会 事務局
 社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会
 〒583-0842 大阪府羽曳野市飛鳥 11 番 法人事務所
 TEL：072-959-2252 FAX：072-959-2632
 E-mail:houjin@daichofuku.or.jp

入門講座

講座 1 「もず共同作業所の実践と運動」(家族の思い)

講師 元もず共同作業所 家族 (現なかまの里家族会(さとの会)副会長) 柴田 康江

元もず共同作業所指導員(現社会福祉法人コスモス理事) 堤 昭子

大阪の施設建設運動の原点であるもず共同作業所。家族、関係者がろう重複障害を持つなかまに対してどんな思いで作られたのか。どんな実践が展開されたのかをご紹介します。

講座 2 「乳幼児期手話獲得支援事業こめっこの取り組み 大阪」(乳幼児期)

講師 公益社団法人大阪聴覚障害者協会 こめっこ担当職員 物井 明子

きこえない・きこえにくい未就学児とその家族、きこえないママ・パパと未就学児を対象にした事業。コミュニティの芽をはぐくむ子どもたち「こめっこ」について。

講座 3 「重複障がいをもつ子供の健康管理と緊急時対応 大阪」(学齢期)

講師 大阪府立中央聴覚支援学校 養護教諭 岡本 宏美

医療的支援が必要な生徒が増加傾向にあります。聴覚支援学校の実情をご報告いただき、安全で安心して学校生活を送れる支援についてご紹介します。

講座 4 「農福連携事業の取り組み 京都」(成人期)

講師 山城就労支援事業所「さんさん山城」 施設長 新免 修

障害者の農業分野での活躍を通じて生きがいを創出し、社会参画を促す「農福連携事業」の取り組みについて。地域の人と共に特産品の農業と福祉でつながる「ノウフク」とは。

講座 5 「高齢聴覚障害者への社会資源づくりと支援 和歌山」(高齢期)

講師 一般社団法人和歌山聴覚障害者協会 事務局長 櫻井 貴浩

訪問介護・地域活動センター・就労継続支援 B 型・有料老人ホームと次々に聴覚障害者の社会的資源を作り出し、支援をしている和歌山の取り組みについて。

分科会案内

第 1 分科会 「労働と発達を考える」

共同研究者 社会福祉法人コスモス コスモス研究所 中村 清隆

共同研究者 一般社団法人京都府聴覚障害者協会 福祉労働対策部長 篠田 あゆみ

「働く」ということには、暮らしを支える収入を得る、なかま自らの生きがい、人々や社会とつながる等、様々な意味が含まれます。また、余暇やプライベートな時間の過ごし方が「人が豊かに働く」ことを支える大切な要素でもあります。

「働く」には多様な側面を含んでおり、なかまが働くことを支援する私たちにも様々な創意工夫が求められます。障害を持つなかまにとって、働くことの目的や意味とは何か。生きがい、目標や希望など、日々の支援の中でなかまが投げかけてくれる。そんな様子と様々な創意工夫の実践を交流します。

第2分科会 「心とからだの健康づくり」

第1分散会 -こころの健康-

共同研究者 社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会 若狭 妙子

共同研究者 滋賀県立聴覚障害者センター 相談員 中西 久美子

重複・高齢聴覚障害者の精神保健をテーマに、様々な職種の方が参加しています。病院、施設、事業所等での実践報告をもとに、様々な立場からの意見交換や、討議が行われ、何が課題となっているのかを明らかにしてきました。

- 1) 専門機関との連携を図りながら、どのように重複・高齢聴覚障害者に対してアプローチしていくのか。
- 2) 重複・高齢聴覚障害者の特徴である、コミュニケーション面での問題を、生育歴や環境等を理解した上でどのように援助していったらよいのか。
参加者との意見交換を大切にしながら、現場でできることは何なのかを意見交換します。

第2分散会 -からだの健康-

共同研究者 社会福祉法人双葉会 双葉会診療所 院長 片倉 和彦

共同研究者 公益社団法人大阪聴力障害者協会 松崎 恵美

健康をテーマに、多種多様な健康へのニーズをより深く見つめ直します。

入所施設支援、通所施設支援、地域生活支援等のあらゆる場面で、当事者や支援者が抱えている「健康」に関する悩みや課題を交流します。

「健康」は日常生活上の大きな関心事でもあります。「健康」「食べること」に関わる支援の専門性を深められるよう意見交流します。

第3分科会 「コミュニケーション保障と集団づくり」

共同研究者 元千種聾学校教諭 竹沢 清

共同研究者 公益社団法人大阪聴力障害者協会 副会長 磯野 孝

「その人のわかる方法をつかむ関わり、その方法の試行錯誤、互いに伝わった時の喜び、それらを含めてコミュニケーションになる」-わかる、伝える、伝わった喜びを共有する等、コミュニケーションが成り立つことで集団（仲間）が生まれ、また集団（仲間）の中からコミュニケーションが育ちます。

それを支える職員も含めてコミュニケーション保障と集団づくりの実践を交流します。

第4分科会 「高齢聴覚障害者の介護を考える」

共同研究者 いこいの村・梅木寮 施設長 記 由美

共同研究者 公益社団法人大阪聴力障害者協会 常任理事 小西 正

今までできていたことができなくなった時に、どんな支えがあれば安心して暮らすことができるでしょうか。高齢聴覚障害者にとって、身体の麻痺や衰えは、身体的な能力低下に加えてコミュニケーションの能力低下にもつながってしまいます。

ご本人の願いに寄り添い、その人らしい人生を尊重し、生きる意欲をもっていただくための援助や介護について実践交流します。

第5分科会 「地域生活を考える」

第1分散会 –高齢聴覚障害者の暮らしを地域で支える–

共同研究者 社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 理事長 大矢 暹

共同研究者 公益社団法人大阪聴力障害者協会副会長 廣田 しづえ

高齢聴覚障害者が地域で暮らし続けるためには、地域や関係機関と連携した支援体制が必要になります。各地域の実践交流を中心に、高齢聴覚障害者が置かれてきた歴史的背景も含めて、「その人らしい地域生活」支援のありかたを考えます。

また実践の交流から、ろう協等地域と連携した社会資源づくり、制度の問題点・課題を出し合い、今後の発展について意見交換します。

第2分散会 –重複聴覚障害者の暮らしを地域で支える–

共同研究者 ほくぶ障害者作業所 施設長 間吾 すなお

共同研究者 公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会 副理事長 小林 泉

重複聴覚障害児・者の地域生活に必要な資源は様々です。

地域での自立した生活を支援するためには、既存の資源に加えて、新しい社会資源の創出、ネットワークづくりが必要になることもあります。どのような資源があれば、重複聴覚障害児・者が地域で豊かに暮らせるのか、また支援体制はどうあるべきか等、実践交流から考えます。

第6分科会 「家族の願いと家族会」

共同研究者 全国ろう重複児・者家族連絡会 顧問 山口 慎一

共同研究者 公益社団法人大阪聴力障害者協会 常任理事 中岡 正人

重複障害児・者の親、家族が抱える悩みや思いを交流し、親・家族の置かれている実態を明らかにします。また、悩みや思いを率直に出し合い共有することで、一人ぼっちで孤立する家族をなくします。学びを共有し、今後の家族連絡会の在り方や取り組み、明日への希望につなぐ交流をつくります。

第7分科会 「福祉実践と福祉制度のあり方」

共同研究者 立命館大学産業社会学部 教授 石倉 康次

共同研究者 公益社団法人大阪聴力障害者協会会長 大竹 浩司

障害者総合支援法や介護保険法等、制度の下での事業運営を考えています。

施設及び事業所の現状を交流し、制度改善に向けた課題を整理し、取り組みや運動を考えます。

第8分科会 「聴覚障害児の発達を考える」

共同研究者 京都府聴覚言語障害センター 地域福祉部 部長 加藤 桂子

共同研究者 特定非営利活動法人つくし 副理事長 渡邊 健二

全国に聴覚障害児向け放課後等デイサービス事業所が増えていく中、子どもたちの障害の多様化にとともない、アイデンティティの確立への支援など専門性が求められています。

制度も変わっていく中、未来を担う子どもたちのためにも、私たちの役割、開所に向けての今後の取り組みや、問題点・課題について意見交換します。